



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

武9  
卷 2  
194

頤醫鈔卷第

諸中風下

性全集



姬聖餅子

二生飯

黑神丹

拒風丹

四生丹

追風應通丹

殊勝藥也

胡广散

苦參丹

二香三建湯

又方 一方 一方 一方

殊麻和氣飲

不仁風茱萸八味散

獸治奇生湯

檳榔湯

大腹皮散

三和散

沈香降氣湯

茱萸丹

木通散

白皮小豆散

又方 白虎堅筋湯

左祐湯

又方

防風湯

防己湯

卷之三

脚氣

續氣降生丹 神靈妙應膏 脚氣禁好物

神仙天寶膏

訶梨勒丸 金玉丹 一方

神仙天寶膏

診脉要 付本文

口舌喉病治方等

中風下

○一中風二合タラン時ハ寂前ニ薬以テ可吐先牛房ノ賓ヲ  
サ炒イリテ細末メ次 羌活五錢水大丸引入ノ三斗入テ  
一引入半ニ煎メ滓ラコシテ后吉酒ヲ三サラ斗入テ後彼ノ  
牛房ノ宾ヲ一度餽ノ三スクイ計ヲカキタテ、サレ酒ノケノ

身ニシム程呑ヘシ暫アツテ物ヲツク也能キテ后余中風ノ  
藥トモラニヘシ如是ツカワシスハ余萬コトヲキノ也ツギテ后六  
ヨノ下ニ薬ハ所用只補藥温ホヲ可用

中風論治

醫經云夫風ハ百病ノ長也云ヘリ凡風ハ是外ヨリ來テ人ノ  
肌ヲ破リ漸骨髓ニ入ハセイニ唯世人ノ氣カツヨクサカリニ  
血ノ路正キ時ハ肌毛穴中キニシキカ故諸ノ風是ヲ犯ヌ更ニレ  
コニ二人若心ニ怒ラナレ喜ラナレ憂ラナレ思ラ辟キ物驚ニラ  
第カサヒヌハ心内ニシカレ氣血外ニワカレ塞ル故ニ急カツ

セ、塞ル故ニ一カツモノ穴アキテ肌ズキテ風其肉ヲ肌ラウツカニ  
ヤスニ風肌ニ入ヒハ皮ヘニカサホロニアリニカサナツツハタカサ一万  
ワツラニヲナシ筋ニ風入コモリヌレハ筋ツリ或ハナエズクミ骨  
冷ニイテキ痛テ或ハ片身スクミナヘ遍身ナ卫スクミ血氣  
ミナタカイ詞タシカラス又心ホレ神ニ乱テ物狂ノ如シ依  
是思ヘハ中風ハ是心ヨリ起テ外ヨリ來サル也然則五藏六府ニ  
皆中風ノスカタアレトモ先通メ寃前ニ血氣ヲ正ス藥ヲ服メ  
氣調テ後其姿ニ依テ療ヲ可儲其血氣ヲ正ス藥ハト  
チトモ八味順氣散寃上之別卷ニアリ

○如聖餅子 男女ノ上氣腰ヨリ下ハ冷虛ケ胸ヨリ上熱リ  
ホメキテ痰堅リ片頭ニロ頭痛ノ心地カヘリカラエツキ目ク  
ラク耳鳴聞ヘサルヲ治 川鳥頭附子ノ如ク天南星アテヘ  
干姜各一枚 耳草アレ川芎火ニアズ天麻 防風カフラステヨ  
半夏各半枚 石細末ムニモチニテツキ合テ〇丸テカタメテ  
一度ニ五粒ツクカミテ茶ニテ可呑温酒飯リ湯ニテモ可服  
○生飯 依中風ロユカミ人ヲレテ斯片身隨ス喉ナリ痰カメ  
マリ氣アカリ氣ウツケ目クラキニ吉甚効アリ天南星アテ用  
川鳥頭皮ヲ去テ南木香一錢右剉合テ毎服二分水ニ引入姜

十五度入テ八分ニ煎 淳ラ捨テ温テ眼ヘシ時不定

○黑神丹 男女ノ左ナヘ右スノニ足ニヒレ腰ニサヒイヲキ  
痛テ足ノツキメ皆痛ラ治 赤小豆 乾姜セ 萩本カフラ去  
ニケナリ 或說二川亨アマツヨ 葦地黄根箭アマツヨ 去川亨各支香白芷ナニキアラス  
草烏頭アマツヨ 睫毛皮アマツヨ 蔡杏 黑生蠶アマツヨ 各半升 耳中川烏頭アマツヨ  
木香アマツヨ 羌活火アマツヨ 甘松アマツヨ 當般カフラ去  
テズ 各三錢 右細末メ少  
ノ粉ノリテ○丸テ一度ニニ丸ヲ細ニカミクダキテ酒ニ茶ヲカキ  
タテ可眼女ノ血氣足キニイラキ痛ミ及物ニオソナレ  
骨ヲレナントシタルニモ是ヲ可眼直ル也

○拒風丹 一切ノ風せ常ノ傷風頭ウチ龜塞リウナレコワリ  
筋ツルニ是ヲ可眼 防風カフラスティヨ 川芎アマツヨ 天麻カフラスティヨ  
耳草各一錢 藿朮アマツヨ 半錢 細辛アマツヨ 三分半 右細末メ蜜煉テ○  
丸テ一度ニ一丸ヲカミクタキテ荆芥ノ煎物ニテ食后ニ可眼  
温酒ニテ可眼  
○四生円 中風ノ左ナヘ右スノニ口眼ニカミ片身スクニ不隨  
身拳更不能云治 五灵脂アマツヨ 當般 肉碎  
補 川烏頭アマツヨ 右小分細末メ小要ノ粉ヲ酒ニ  
キテ糊ニ子リテツキ合テ梧桐子ノ勢ニ丸テ毎服七丸若八十

粒温酒ニテ可服

○追風應通丹 和剤方 諸ノ風ノ痛左大右スクニ  
片身不隨口眼ニカミロノイツメ音振テ物イワス筋ツリ万  
筋ツキメ骨痛ノ腰股堂ノ耳ナリラホロニ足脹ニカ無クノ  
ニカ、ニル更アメハス面ウキ腫レ遍身ニヒレ皮ヘ子ニリタル  
ラ治ス 又女ノ血風セメニラキ痛面ハシ身ヤセロニカク  
舌乾キ頭暎ノ目メクリ身ツカニテ多ノ子ムリ皮ヘカニカ  
リ風ホロニ肌ヘ瘡出テナツキニ風ニ三頭風ニヨニ  
川烏頭炮何首烏各六枚五灵脂立文 乳杏別スレニ

狗脊モラヌテ 蔥天仙ツバメ 右細末メ朱粉酒ノ糊ニ燥テ○  
丸テ每服十五粒若ハ廿粒ラアタメ酒ニ麝香ラサ入テ  
可服又只酒ラアタメテモ可服空腹ニ可服ニスハ身ヲ輕  
筋骨ニカラ出血ノ路ラ正シ温熱ラ除キ諸ノ風ラフセキ但  
妊娠ハ服ヘカラズ

○胡麻散 脾藏ノ風身ラセメ皮肌カユカリハタケカ  
サ出キカケハ瘡ニ成テ久イヘスメ又起蕩ノウニ若ハ身ニ風  
ウキテ虫ノハウカ如ク赤白アサ又癩病ノ如或ハ腎藏ノ風  
若ハ足膝ノ瘡ラ治セラヒ 胡大セラヒ 苦參セラヒ 荊芥各八枚

何首烏ニホウ甘草ミツロウアレ歳サシ天仙谷スカイ右細末每眼二錢  
薄荷ヒゲツ葉ハ煎ゼンニ茶チャラメテ、可眼又カリ此葉ハリ眼  
又飯湯ミヤシタ茶チャラメテ可眼是ハ間常ニ湯ミヤシタアヒテ汗ハ  
流フ也

○若參四 心藏肺藏ハツザウ腎シウ腎シウ脾ヒ皮ヒ肌ヒ  
メ身ニカサ出身ハカエカリテタエカリメクカク時ハ瘡ヨリ黃  
ナル汁スルメリ及癩ツバキ風フウ手足シテ破眉毛落ハラハラ治  
若參三十枚 荆十六枚 石細末メ米粉ヒヨウラ水ニテ糊スルニ子リ  
梧桐ブツドウノ堅カニテ毎眼三十九茶チャラメテ、眼ヒヘシ

○二香三處湯 滴上方 男女ノ中風ウツブンノ身ツカレヨハクニ  
入脉トモニホソク舌ニハゾメ物云ス瘻ヨタリ多ク心ホレテ手  
足ナヘスクニテ起夏不能是ハ此薦ハ吉但此薦ハ宗ト身  
虛ハシマヨキヲ治 天雄附子アマニ附子 川鳥頭カツヌ南木香  
半互火アテス沈香三分火アテス 石細剉合ハグテ毎眼四  
錢ヒサツノ量サ水二引ハシマテ善十斤ヒヂ七分ハシマ剪淳ゼンラコレテ温ヒ  
空心ニ可眼

○又方 滴上方 旋覆花センブクエケラ洗捨アフリカハカ  
シテ 石細末メ煉蜜ハニテ〇丸ハシマ、卧子サニ毎眼五丸若六

セ丸十九ツ、茶ヲ以テ可服諸ノ中風并胸ノ塞リ中風咳

喘息吉

○一方千金方 中風ノロラクヒツメテ人ヲシラサラニラ治  
白木覆 酒ニ引入ニテ一引入煎テコレサレ醉ホトアタウヘ  
又鴉沽四隻ヲ前ノ如煎服ヘ

○一方斗門方 中風ノ面目ロユカミタルラ治

石灰ヲ湯テトイテ左ユカミタラハ左ノカラニユレ右ヘユカミタ  
テハ右面ニユレ面スグナラシホドニニナクユレ若ナラリタラハ  
イソギナニスルノ湯テ洗落ヘシ又方ニハスルヘシ

○又方至悪方 桔梗根ニテモ葉ニテモ実ニテモツギシホツテ其  
汁ニ大麦ヲナニシクテツギフルイテ皮ナカラ鳥ウリノ汁ニカキ  
合テ餅ノ様ニ作テ火ニユクトアフリテユカミタル方ノ面方  
ニシ方ノカラ、能トリカヘシアヌムヘシナラハ則トイヨ  
是巣上ノ方也

○又方 日方 巴豆三粒ヲ皮ラムキテタラトスリ丸ヘユカミタ  
ラハ右ノ手ノウテニユリ右ノユカミタラハ左ノ手ノウラニユレカ子  
テヨリナニスルイ湯ヲ以テ洗落セ久ク置ハ悪也

○一方 猿真人 中風ノ音カニテ物云サルラ治ス 桂心一爻

水三盃入テ一盃ニ煎テ沸テ可呑

○又方 日華子 ニラヲツキシボリテ服ヘシ

○殊麻和氣散 治瘡疥發於四肢齧齶痒不常甚致增寢、發熱放刺疥痛浸淫浮ニ腫及ヒ癩、風入藏陽ノ下溫痒耳眼痛ク蒼木ニ五桔梗、叔麻、乾葛各一枚 陳皮一枚二分 芍草 芍藥各三分  
半夏湯三合七反取ラカス 當歸 白芷 茵苓各二分  
枳殼 厚朴 千姜各二分 大黃二分火三炮ス  
石蓀末每服四錢水一盃半生姜三片灯心十五莖入合

七分ニ煎去滓食前可服

不仁風氣茱萸八味 此藥ハ一切ノ人ヲ瘡ニ或ハ酒ニ醉タル如ク又ハタバコトニキモキニシ心ハシリシ大ニ恐ラノキ鬼ヲ見タニシイ無力如ク又ハ息短シテ物云ス又ハ物ワスレシ又ハ胸イタリ背ニトラリ或ハ食ヲ思ス或ハ妻子ヲニクミ或ハニイラキ人ノ物云音聞夏ヲイトニ或身カユク痛キ夏ヲ知ス又ハ身振ワナ、キ又ハ腰肩膝ハキ室クケレ腫ル是ラ脚病痛夏ヲ知ス又コカリ又ハロエカニ面カタフキ又ハ手足隨ス展シメスルコト心ニ不叶是皆風ノ成ス处也

針ヲ以テ刺カ如也此形有物ヲ皆治スト云

○山茱萸 五味子 桂心 鳥頭 附子

天雄

北藥ハ

皆アツ灰ニウツミテ取出時イリ

テ取累テ皮臍ヲ去ウスクキリテ炒

右此八種ヲ

皆細末メ毎服五分貝ニテ一ヒラ吉輔ヲ温テカキ

立テ一日ニ三服スヘシ十日以后ハ方寸貝テ可服禁

物桃李ニルス、メサハ猪生ナスキ物コイナメサ物油物ツク

キ物七種薦風又音ノ骨ノ痛治

桂心 白朮 陳皮 蓬莪朮 千姜 胡麻

高良姜 右ホ分散酒ニ入テ可服

○脚氣

五木湯夏

唐臨論云瘡脚氣

卒ニ不能行及疼痛メハレス漸半足ヤセホソリ腹フクレ

半足弱ク成ニモ吉薦湯七日以后ハ水湯一日若ハ二

日アフヘニ桃柳槐桑穀件五木ノ葉モ木モ石五木各

別剗合テ一斗ヲハカリテ水一石塩五升入テ五斗ニ煎

テアヒユツルセ七月五日三日隨意湯アフル様ニ又湯屋

ヲ風入ラシ様ニスキニラ塞テ戸ニハ筵ヲカケテ内ニ杉ノ葉ヲ

レイテ其上ニ筵ヲレイテアフルセ吉程アヒテ汗ヲタラス

不可又湯ノ間ハ酒ヲ多不可飲。茶ノ煎物ヲシタニノ煎物黒大豆ノ粥食ヘシソ、口ニ食ヲ多シ酒ヲ多タノムハ惡也。湯ヲアフル間身ヲアラシハタラカシ痛キ所ヲ引ノベカ、ムレハ弥血ノ路乱テ脚氣内ニ入忽ニ大更成也。此脚氣腰中骨筋ニ入スレハ死ル也。急是ヲ療治スヘシ内ニ入テハ更ニ療治ナキ也。此勞殊更極寒極熱ニ次第ニ大更ニ成也。適二年三年漸生必癲狂病ト成。

○脚氣論治  
凡脚氣ハ皆風毒ノ至ス所也。陰脚氣ノシナアリト云ヘ。其ニ寒暑湿冷ノ作所ナリ。○脚氣論治  
凡脚氣ハ皆風毒ノ至ス所也。陰脚氣ノシナアリト云ヘ。其ニ寒暑湿冷ノ作所ナリ。

諸ノ風濕ホノイキ足ノ裏ヨリ入テタリヲ成故ニ半足脛骨ニモ又ハ腫或ニニイタム也。湧足ヨリ發ルカ故ニ脚氣ト云モシスソヨリ腫上テ腰中ニ入テ脹シハ大更也。其形ニナレ凡皆薬ヲ可施

○独活木香寄生湯  
肝腎ノニ藏虛弱或ハ久湿氣ノ地ヲ脂ニ或ハ足ヲ洗テ風ニアメリ或ハ足ニニカセテハタシニ土ヲフム故ニ運氣冷氣足ヨリ入テ脛股ノ筋ニ上或膝脛ニ力ナク又ハ足腫痛ニ又ハスクミヒテキ又ハ紫色ニ腫或ハ足股脛ニ瘡出足膝ツリ堂ヲ治ル方

獸治三爻

桑寄生

續断

ト云

杜仲

サアフリテアラ

牛膝

カフラ去テ

皮ヲケリテ

牛膝

酒ニシメセ

細辛

茎葉ヲ

完桂

火ニアテス

白茯苓

防風

カクミテヨ

川芎

當歸

人参

熟地黃

芍藥

秦艽

各ニ

甘草アラリ

右細ニ剗合テ

毎服四錢

ノ室ナ水一

引入中ヲ

姜五片入テ

七分ニ

煎テ

滓ヲ

コシテ

温テ

服ヨ

時ヲ不定

若キウツケテ

利下リ

腹ノ底

イタクハ

地黃ヲ

ステ、

生姜ヲ加テ

煎ヨ

是宣上ノ方也

○檳榔湯

一切脚病

足痛

ク氣塞

ヲ治ス

是ヲ

可服

氣隨ニ

痛三止ル

○檳榔子

香附子

陳皮

紫蘿葉

五加皮

木朮

サニラヌテ

ウララ

甘草

各爻

石細

剗合テ

每服四錢

水一

引入中ヲ

姜五片入テ

八分ニ

煎メ

滓ヲ

漏テ

服ヨ

若女ノ脚氣ニ

當歸半

加テ煎

ヨ又ハ男セス

女ノ脚氣ニ

芍藥半

互半加ヨ

若脚病ノ大便

絞テ

而モ身虛弱ハ

枳實ヲ

加ヨ若身ノ內

熱セハ大黃ヲ

加ヨ并時ヲ不定

イク度モ可

○大腰皮散

諸ノ脚氣ノ腫滿

并ニ小便滯

治ス

大腰皮三爻

木朮

サニラヌテ

ウララ

去

紫蘿葉子

檳榔子

荊芥穗

烏藥

陳皮

紫蘿葉各一爻

沈香

ス

去

蘿蔔子半錢采白皮一枚半枳殼五分 石細剉合テ毎服四錢引入中ヲ姜五片入テ八分ニ煎テ滓ヲコヨテ服ヨ

時ヲ定ス以上和剉方

○三和散 脚氣ノム子腰滿脹大便下ス及氣塞テツキメイタク頭面浮腫テ足少腫タル治ス  
白朮三分 川芎三分 南木香三分 陳皮三分 檳榔子ノコラコ子テ裹テアツ灰ニムシテコムキラス一分 用ヨ三分 大腰皮アフリコカセ 紫蘿 沈香  
木丸各三分 羌活一枚 右細剉合テ毎服四錢水一引入テ六分ニ煎テ滓ヲコレテ温可服

○沈香降氣湯 蔭陽ノ脚氣ヲ治氣上テ胸ヲセキ腰堅脹滿テ足顏身浮腫氣塞テ咳嗽喘息ヲ治ス 香附子ケラス一分 沈香一枚半 甘草三分  
縮砂四又三分 石細半篩テ每服一錢鹽湯三テ朝メ空腹可服

○俞山人降氣湯 身虛テ氣上リ腰膝ニカナソアイキレワフキレ諸脚氣ヲ治ス 紫蘿子 前胡  
厚朴前二同 甘草 陳皮ウツラ當歸 半夏麴 桂心  
五加皮 黃耆各一枚人参 附子 桔梗 羌活 千姜各  
麦

右細剉合毎服四錢水一引入半紫蘿葉三姜三片  
棗一入テ七分煎テ滓ヲ濾テ食后ニ可服

○蘓子降氣湯 腳氣ノ上ニホリテ心腹脹アイ

キシテ急ニ脇ノ下ウツケ冷エ喉乾氣上ヲ治ス

前胡 厚朴 玉ヤ當皈各三錢 肉桂 陳皮各三分

半夏ニ々

右細剉合テ紫蘓子無クハ紫蘓葉ヲ

クシテ毎服四錢水一引入半姜五斤干棗一入テ七分煎  
滓ヲコシテ食后ニ可服

○祕傳降氣湯

男女胸ヨリ上ハホトカリ乞上

喉乾脣ヨリ下ハ冷ウツケ小便シケク先ニ諸脚氣心腹  
ヘセメアカリ腫脹及利下ヨリ若ハ利結ルヲ治ス  
以上和剂局方

○烏藥平氣湯

治脚氣上放五藏松セメ諸ノ乞不和

ユメア卫キシワフキ坐卧不安頭暈足弱腰虛胸滿テタルヲ  
モ治ス烏藥中木ヲ去人參 白朮 川芎 當皈

伏神 中木ヲ去

甘草 香白芷 木朮 五味子 紫蘓子

各三分

右細剉合テ毎服四錢水一引半姜五斤棗

二八テ七分ニ煎滓ヲ濾テ温服或細ミソ振テ湯ニテモ服ヘシ

○茱萸丹

脚氣ノ腰ニ入テ脹ニ身疼キシニテサスルニラホ

スア卫キシハナキノルニキラ治ス　吳茱萸　木丸・

右木分ニツキ飾テ木粉ヲ酒ヲモチノリニ子リツキ合テ○丸

テ毎服五十円若ハ百丸ヲ燒ル酒テ可服諸ノ脚氣ニ吉也

○木通散

脚氣ノ補藥ヲ可服スコシキ小便トニリ

肺下脹痛ヲ治

當歸

梔子仁

赤芍藥

赤茯苓

甘草各一反

石細ニツキ飾テ毎服三錢水一引

八テ七分ニ煎滓ヲコレテ立テ可服

○白皮小豆散

脚氣小便留リ兩方足腫脹

以上三回方

羌活ス

赤小豆半升

桑白皮ニ爻

紫蘆

三ニキリ

生姜半斤

石細剉合テ此ヲ一度ニ皆ヲ水三盃入テ煎

小豆ノニタル時小豆ヲクヘ汁ヲハコレテ温テ可服

以上三回方

蘿蔔カ云

凡脚氣ヲ病人ハ朝ハ仕心飽ホト食ヘニ午

時ヨリ后ハ食ヲサスヘニ暮ニ六更物ヲ不食若メ、飢メ

テハ大豆ノ粥ヲ可食若腰痛霍乱ナラントセニ時ハ高良

丸一兩ヲ剉テ煎温テ可服姜ヲ煎メ服スルモヨシ・

本草又方

凡脚氣ノ人ハ家ニ用ヒ所ノ桶板并ニ板敷

三テモ松木ヲ用ヨ又松ノ葉松ノ木ヲ常剪足ヲユテ并ニ  
腫タラン所ヲユテヨキハメテ効アリ

濟生方ニハユツト莫ラ禁メレトモユテ、愈ル効タク見タリ  
脚氣ノ胸上テクルニクフル、ラ治ル方千金城方白礪  
ニ水五杯入テ三盃ニ煎熱テ足ヲユテ洗ヘ

又方濟衆方 檳榔子ヲ一度ニ大ナルヲスリ振テ童子  
ノ小便一サラ姜ヲツギシホリテ一サラ温テ酒一サラ入具テカ  
キ合テ此檳榔子ノ粉ヲ一度ニ皆入テカキ立テ可服胸  
腹ノクルニサイメサ立處ニナラル也脚氣ノ股脛脛滿テ久ク

不直ヲ治スル方 黒附子一度皮ヲ捨生テスリ振テ姜  
ノ汁ニトキテ腫ル所ニ鳥ノ羽テスルヘニ度々スリテ腫ヘラハ  
麤テ洗ニ落セ

○風氣脚氣ノモニ脛足腫テ指ヲ以テセバ跡ノクボムラ  
治方 脚後方 牽牛子ヲラスリ振テ蜜ヲ以テ大豆ノ  
勢ニ丸テ毎服五丸ツ、姜ノ煎物テ可服 小便心ヨリ下ハ  
服ニ止ムシ小使滯ハ毎度モ可服

○脚氣ノ足ヨリ膝脛股へ腫滿下骨痛疼ラ治スル方  
千金方 蒜蘿根 細ニタキスリテ酒ト醋トニトキ合テナヘニ

入テ温テハレタル所ニツ、ミニワレテ上ヲ布テツ、メ一日ニ一度ツ、

カヘヨ蒴蘿ノ葉モヨニ 又方革麻葉ヲツキ剗テナヘニ

八テ温テ足ハキラツ、ミニワセ上ヲ布テケ 一日ニメヅ

ツミカ卫ヨ 私云是度々心見タルニ極テ効アリ

以上諸方 若葉ナキ寸ハ寔ラスリ子バトニテアメメテ  
付ヨ極テ効アリ

白虎歷節論治骨ヲ物ノカフリソニサクヤウニイタキ病ナリ

夫白虎歷節ノ病ハ骨ヲキメラ物カフリヒキサクヤウニタキカ  
メクイタキ也 是則風寒湿毒ノ氣筋ニ入テツイニ骨髓  
ニ通テ此病ヲナス 痘漏論ち酒ヲ呑テ風當リ汁出毛

ノ穴アキタル時水ヲアヒ水入テ此病ヲナス也久ク治セサヘハ  
骨筋碎又癩狂トナル也此病筋筋骨イタキ夏虎力  
フルカ如ニ故白虎歷節云也痛コトカテサクカ如シハ寔ニ  
ソコナハレタル也骨ヲスクヤウニ痛ハ湿氣ニ犯サレタルナリ  
又汗多無風ソコナワーテル也

○羌活湯 白虎風毒ノ筋骨筋髓ニ通イタ

ヒイラグヲ治ス 羌活ニ及 附子皮ヲ去 奉丸カラステ、

桂心火ニアテス 南木香 川芎 當歸 牛膝カヲ去テ酒ニ合

骨碎補 桃 イリテ止血ノカスハステヨ 防風各ニ及 甘草アリテ  
半支

右細剗合テ毎眼四錢水一引入半姜五片入七分薑之滓  
ヲ滲テ温服ヨ 以上清生方

○防風湯 身ノ手足ツギメフシメスクルカ如ク痛  
或ワキウテカイナ腫レ頭重シ目クルメキ息短ク胸  
クルクテ心チカヘステ治ス 防風 白朮 知母  
桂心各四錢 川芎 芍藥 杏仁 茄草各三錢  
半夏アリヘニ生姜各五錢 右細剗合テ一度ニ四錢水  
二引入テ一引半ニ煎テ滓ヲコレテ温テ可服晝三  
度夜一度可服

○羌活湯 諸ノ風并ニ中風ヲ治ス 羌活  
桂心 芍藥 葛根 麻黃 乾地黃各三錢  
其草ニ及生姜各五錢 右細剗合テ一度ニ四錢  
水二盃入七分煎可服 又酒テ煎テ眼ルモ弥吉  
昼三度ツ一可服  
○防己湯 ハヤシツギメフシ手足ニイテ手痛骨ヲ物ノカ  
フルカ如クツチヲ以サニサソヤウニ忍ヘカラサルヲ治ス  
防己 茯苓 白朮 桂心 生姜各四錢 茄草三錢  
人參ニ及烏頭皮ヲ去イリコカセ 右細剗合テ一度四錢水一

引入テ醋若、酒ニテモ二斗入具メ七分煎テコシテ  
温テ昼夜三度夜一度服ヘニ是ヲ服テニイテキカユカリ  
身ホトヲル也又レムヘカラスイヘムスル故也醋酒ヲ入ル  
夏キラワハ入ヘカラス心ニ仕身カユカリテ痛サクナラハ  
服止ヘニ 以上千金要方

大豆湯 治脚氣上テ心滿テ不欲食死ニ方

石水五升ヲ以煎テ二升半分ニ三服セヨ

○脚氣腰痛治方

續氣降生丹

人參一又香白芷一分 檳榔子一分 當歸二分 甘草半分

川芎二分 广黃三分 防風一分 陳皮一分 白朮一分

訶梨勒一分

右各細末メ甘葛テ○丸テ毎服

三十九

○神灵妙應膏 津公祕傳云 諸脚病ヲ治 祕膏也

一切中風左ナヘ右スクニ遍身ナヘニヒレ五年十年

ニ成ラモ治ス

硝石細ニスヘシ 采寄一又 附子一又 麒麟竭一又

沈香一又 白及一又 麝香二分 柴胡一又 南木香一又

人參一又 夜合皮一又 黃耆一又 没藥一又 乳香一又

齋金一又 紫檀一又 辰砂二又 水銀一又 芍藥一又  
柳枝一又 黃丹十五又 清油廿十又 右調合有口傳  
可祕之祕藏無双之妙藥也

○脚氣好食 生栗 干棗 雉 杆子 榆 枇杷  
猕猴 桃 暑預 蘭 零餘子 伊チコ アケニ  
胡桃 胡廣 赤大豆 サケ 薑 牛房 韭 ハウコ  
キノハスコフ メアラクイリ フキ アサニ ハコヘ 虎杖  
ニシラ コイチナ アユタイ アチスキ コハメ シラケ  
アウヒ カニ イルカ ウサキ カノシ サニ サハ ナニス

ハニクリ  
○禁物 サクロ ナレスモ キウリ ナスニ モチニ  
サクイ ワラヒ ソバ ムギ ナツメ 大根 ミヤウカ スナ  
ニサコ 辛 コニヤク コウチ ハスノミ メカムナ 紫ノリス  
但不分明 力モ 鵝 酒 油物 生菜子  
○奧書 一訶梨勒丸 此訶梨勒丸者一切風  
ヲ止令湿ヲ除キ 瞳豆ヲ除大方風治ス 又ハ脚氣ヲ  
治ス水腫風令一切大病ヲ治ス或ハ大便不通体枯慘カ  
ニソ面遍身黃ニ赤白刺ヲ下ス疼痛久吐熱一切心痛耳

痛冷嗽脣色白或腹痛暎又治腹中虫支節無力  
疼痛血脉不通ヲ治

訶梨勒ニ及檳榔子ニ及

人參一又

橘皮一又二分

大黃三分

桃仁二又

桂心三分

茯苓二又

芒消一又

敷一又

狗脊三又

干姜三又

牽牛子十三又

右十三種搗羅密若耳葛ヲ以テ丸如梧桐子大サ  
丸ヲ酒若ハ薄粥ノ汁服朝令以前下痢良

○金玉円

治脚氣腫滿行步不能安患毒水

腫万毒一万病七八種風邪平愈更甚効驗

牽牛子七又

大黃二又

芒消二又半

人參二又

橘皮二又半

巴豆二十五

沈杏二又二分

木香五分

桑寄生二又

右各和合以煉蜜如梧桐子丸一服十五丸

但可通  
人多少

○脚氣秘藥膝筋痛脛筋ツリ痛ヲ治

地草根ヲアツ灰ニ埋テ蒸燒テ席皮去日ニ三度服ヘシ

祕薑也又腰ノ痛ニモ乳粉ニメ酒ニナクリニメ其上モ付先

二錢ヲ酒ニタテ可服則ウツキナル也腰膝不立モ平愈

スル也出醫住

○脚氣六熊膽ヲ呑ヘシ

一中風祕藥

舊法說

唐胡麻ヲイリテス、シノ袋ニスイクミテ、一ノハ煎ス

可服也

脚氣ホノ腫痛治方 土芋ヲ根ナカラ能土氣ナク洗  
テ塙ラクヒラニ入テ細ニキサニテ子ヤシテ腫物ノ上ニ付テ  
紙ヲフタニラニテ置也 骨節病ニ吉ロウミテツ立  
タルニモロアケテ可付ロノ無ラロ付ナル也 無左右祕  
藥也

○脚腰病六 腰ノ中ヨリ寸ヲ足ノキヒスヘ引クラヘテ切  
其ヲ右ヨリキヒスニアテ大骨ノ當處ヲサレテ三十壯灸スヘシ

○神仙靈宝膏

芷蔞子

細ニスル

乳香

ナツメノセイニスレ

右各スリ合テ蜜一斤入テ銅器番ニテ子ル也

脉夏

新集王氏脉訣

余竊窺百氏盜肩九流乃至醫家尤甚屬意嘗  
讀黃帝難經粗窪經云理八十難之內訣候ノ者  
二十四首詳夫聖人用意宣徒為哉蓋後ノ學者識  
淺難量因得精粹今執於近代各人訣訣中擇  
當用者撰成訣要一部雖其詞鄙陋所貴徒俗  
使令之學人晚經則然後探曠難經之訣候

詒字診

夫人者稟天地而投胎憑父母精血而成<sub>ノ</sub>。按五行而成五藏六律而成六腑。自成胎至五个月遂藏府若有三魂七魄三鬼之煩來附其為今代醫師難<sub>ノ</sub>。并古賢遺術淺識亂量治療無驗以至致病人形減平且其人令與檢諸書作成一軸先看形之像逐列三魂七魄与三尸等神之名字及九虫之象類仍畫五藏之神形畧其諸家脉訣仍益神農之食忌名集于後好學行醫之信士望賜一觀若識藏府之淵源易詒叔和之枕要識病用藥

豈不濟之人能起死回生矣

黃庭祕旨圖序

夫人主陽人貪人以五藏氣地主陰食人以五味相感浩為五藏之炁散入四肢十二部三百六十閏節為筋脉津液血髓蘊成六府三集十二經通為九竅故五藏者為人形之主一藏損則百病生五藏損則形減若能依圖修養然後堅強內受腫脹諸毒不能侵外六遭病疾諸氣不能損聰明純粹却无延年日月精光來附我分四時六氣來合我體祀握陰陽

呼吸精神不假丹田玉液自然五藏之氣結五雲而入天中千變万化取飛軸輪而高意不悟者勞苦外求冥脈知生之道也大中戊辰大白山見素如子胡撰人身者也人身父之精母之血胞胎成人在世豈可無病不服藥之理天有不側風雲人有旦夕之禍福春間者服藥一宣百病皆除夏間者服藥一神安和五藏秋養脾胃冬神丹田右四時服藥之清調陽榮衛人皮膚外有七十二種惡毒疔瘡瘻疽用針灸之乎

主偏出相五藏五因

心	帝王	火	赤	舌	苦	傷肺	養脾	熱
肺	尚書	金	白	鼻	辛	傷肝	養腎	寒
肝	為丞相	屬木	色青	責	受酸	傷脾	養心	畏風
脾	大夫	土	黃	口	耳	傷腎	養肺	溫
腎	將軍	水	黑	耳	咸	傷心	養肝	濕

中指當高骨餘二指當三寸口閼上尺中三部之脉名也一男正月丑二月卯三月辰

尤右手寸閼定五藏六府脉出現圖

余今設此面者蓋為今人不識阜蹻と高骨也若以高骨為莫際昂下指若牙至意不同一也。

三部脉

所出面男左女右

○齒ラ虫ノ食ニ痛ハ半斐ラ細ニキサミテ略見ニテ煎テ痛方耳ニ可入半時計アリテ立處痛止也

○嘔ノ間ニ三穴アリ各吹テ見ニ皆息トラリ塞ス一穴食一穴ハ氣一穴ハ水カヨウ也此義一說一嘔ニ三孔有ト云更或書ニソレリ水トハ一嘔ヨリ入也氣ノカヨウ孔ラ咽ト云ト云此咽嘔ノ二孔ノ三百ヘシ三トハ不可云此義尤吉一咽ト

息通道也是闕門ト云大腸小腸ノ合處也此闕門ヨリウルラ正ル也汁別テ膀胱ニ入テ溺トナル脾ノ藏胃府ニ通ル故ニ睥胃熱スハ咽門腫塞テ物ヲ呑不叶一嘔ハ水穀入所前穴也肺藏大腸ノ府哉嘔瘡トテ物云更不叶是ハ心肺ニ藏ニ通也一咽ハ胃ノ府ニ通ス腐ノ病嘔ハ五藏通ス五藏病也

○董古治方一足ハ宇治僧正覺虫札面ニ書也サ甲ヲアラセテウスク作裏ハ平ニ造之



面封



裏封

其人生氣方柳樹ヲ切作

三寸計札也。荀可書此封ヲ外ニ蹊ノ中當三爻通

程燒也。欲燒時合掌云。端ニ楠封書所ヲ中指ニ配テ裏

荀ヲ蹊ニ當テ誦文頌云。

三台玉女左音竜右白虎前朱雀後玄武或無私入急々如律令。此文七遍誦后可燒。

○口古燭タル薑オニ又キテモニテクムヘシ

○口古燭オニキハタウニイノコツチ茗荷ニルスケハス子

菖蒲

松葉地

石九種物ヲホ分合テ煎半分ニ成時ミヲ去テ肴奨ノ一盃計ニタフサラ粉メ一錢入テカキ立服スヘシ

○喉ノ腫治方第四手ノ大指ノキワヨリ血ヲ少可出カノサキヲ當テ可憚。又云タウサイ千ハカリ物ニ入テ

火ニスヘテトキテ取ラロシカタニラカシテツミテタニタニハ吉也

又云唐桃ノサ子ヲヤキテ細テ蜜ニ丸其汁ヲスワフル也辛一升擣碎喉本付ヘシ千ノ子擣酒ニ入テ其汁ヲタメ鳥小豆ヲニテ其汁ヲタメ

○喉腫タル治方五鷺羽灰ニ朱湯ニ入テ可呑又云キノ頸丹キワラ矢ヘシ

○魚骨立治オ六滑ノヲ水以テスリテ可呑祕藥也

○又云フナノ骨ヲ喉ニ立タルニハツ又キノ灰ヲ湯ニ立テ可呑

○口古爛治方 第七

アカサヲ灰ニ焼テ甘巾

ヲ粉メ合テ可付

○喉ノ腫物治第八

粟ヲヨリシラケテ小ハ

十三テスリテ醋ニ合テ隙ナク上可付

又云喉ノ内腫大豆ナラバクチナハノキ又ヲ灰ニ燒キテ  
筆ノ軸ノ先ニ置テ喉ニ吹入ヘシ腫ハ鼈テ小耳ノ子ヲ可  
炎也

醫書

巖氏濟生方 千金方 三回方 房方

葉氏方

聖惠方

夏證方

簡易方

是疳方

濟生方

雞峰方

斗門方

經驗方

孫真人方

王氏方

日華子方

孟詭方

濟衆方

大豆方

千金要方

活人書方

選奇方

活人夏證方

南陽活人書方

本草直明醫外臺方

万金方

楊氏方

百一方

醫學金書

楊氏家藏方 錄驗方

嚴氏方

翰良方

標宗元方

王德膚

簡要數

薰德延經論

巢氏論

家藏方

千金城方

集驗方

崔元毫方

外臺秘要方

博脊方

葛氏方

時後方

廣別方

扁經

經驗方後集

食醫經

抱朴子平集

梅師方

備急方

胡氏方

類要方

深師方

海上方

陳藏器

食療經

孟說

張氏方

祕錄方

藥性論

博救方

錢氏方

金書

姚和衆方

玉林方

瘡ノ喉ニ入治九フニヨリ左ニ依テ出ヲ、右足ノ小指ノ  
ニタラ七壯灸ス右ニ依テ出ヲハ如此ナカヘテ可灸左  
石ナカラ腫メテハ左右ノ小指ノニタラ灸ヘシ

禹金散

順解散

麻黃湯

人參順氣散

葱豉湯

桂枝湯

敗毒散

桂枝人參湯

小柴胡湯

大柴胡湯

大羨氣湯

灸丑申散

甘草泻心湯五苓散

附子湯

理中丸

四逆湯

黃芩湯

茵陳蒿

枳實包子

桃花

升麻

陽毒升麻

竹皮

鼈甲散

三黃丸

赤石脂

玄參升麻湯

黃連阿膠湯

黃芩芍藥湯

黃連解毒湯

羌活附子散

生姜半夏湯

香薷散

白朮散

和解散

僧伽應夢人參散

雲母膏

太一

傷寒

經云春之氣八溫和也夏之氣八暑熱秋之氣八清涼冬之氣八凜冽是八四時之正氣之序也冬嚴寒之氣方顏深藏

君子堅深居大寒不傷卑民隱居不能寒被侵傷是傷寒名之四時之氣何以皆病哉セトモ殊ニ傷寒以之名夏人傷殺充甚太故也寒ニ當則病傷寒云則不已其寒毒之氣肌骨ニ留テ春至溫病ト名夏至病ヲ熱病ト名是皆冬ノ時ニ寒被止傷依病故傷寒云也時行云春八天氣溫和十九八可熱也夏八可熱返天下大寒ニ時ニ寒被止傷依病故傷寒云也時行下大寒ニ半秋可涼返大熱也冬ニ可寒返大溫也其時ノ氣ノ氣天氣易ル是依天下人男女大小不婦皆同病是テ天行トモ時行トモ云也心天ノ四時氣違ニ依病故也

次疫病ト云ハ上四時不正氣ニ依人病時灵祇邪鬼局  
得使人惱或一鄉一村一家比移病是ヲ疫瘡疫病  
云也心天行時行上添夏也遍皆治方也

### 傷寒十勸

一傷寒、頭痛身ホトヲルハ是陽證ニ無薦ホラ不可与  
恩也 二傷寒ヲハ先令薦ニテハ可責補薦不可  
能

三傷寒飲食思サルニ脾胃薦ヲ以進食治不  
可為傷寒不治間ハ何日食サレトモ更無敵死ノ憂理中  
丹ノタクヒラヌヤスク不可能

四傷寒、腸痛夏有弊

證有輕重溫熱不能丸腹痛ニ寒ニ熱アリ手足冷肢痛  
ハ冷也可知手足ノ裏ホトヲリ温ヲハ熱トシリ温薦ヲツ  
シムヘシ

五傷寒ノ自痢トテ心ト腸ノ下ナリモニ手  
足ノウラホキ喉乾干胸ホトヲハ熱證可知温薦  
不可能ニタリ刺ヲ留薦アラ不可能

六胸脇痛及腰脹滿浪リニ灸不可傷寒ハ丸寒變  
熱ト左熱時ハ火灸不可用故也若灸スハ腰脹テ喘息  
メ死也

七手足冷アカラハ先陽證ト知可治  
若始病ヲ得時ヨリ三四ノ間身キハメテホトヲリテ大便

ト一リ小便アカリ心ホータワコトスルハ熟證ト知羨氣湯  
ラニテ内外ラスシケセヨ若病ヲ得時ヨリ身ホトヲラス大便  
トコラス小便シケク手足ニ卫ノホラハ陰證ト知テ四逆  
湯ライソキ可与

八傷寒ノ病スデニ五藏ニイ  
ラハアセライタス薦ラ不可与若身ノ内外ホカトモニホトコレ  
ト又ノロサムカラハイニタ勢五藏ニイラスト心得テ汙ラタ  
ラスヘシ若遍身内外ミナホトラクサムカラハ勢内外ニ入ト  
可知スコニアセラメラセハ邪気ハト、ニリ真氣ツギテヨワク  
成也

九傷寒水ヲホシガリテアカケハ水ヲツツ

ツ子ニ可与飽ホド不可呑ノニアカセツレハ嘔逆ノ病ラナス  
又アイキシハフキス又痢ラ下ス

十傷寒ノハシメテイ卫テノチ食セニハアノニテ不可与  
サヤ常ニ食ヲ可与又麻鳴ノシムラ不可食不可行端  
更及モツノ骨酒麵ヲ食ス不可脾胃ヨハクシテ諸  
食物ニソコナハレヤスキ故也食ニ依ニ度病カヘルヲハ食腹  
トナツク病イ卫テ后氣良ウツケヨハシ然ニ身ヲツカラカ  
シテケルシメツレハ又病カエルコレハ勞復トコトナツク

ロ万金散

四時ノ傷寒、陰陽ラトワス通メ此ラニ

十二十九カライ卫百ニ百ナカライ卫表裏ラヤワラケ隨フ  
其効神ノ如レ

桔梗六又 川芎六又 前胡六又

枳殼ナスナヨ 卯申三又 独活ミツバ 蒼朮カツラ 六又

右細ニキサミ合毎服三錢水一盃半姜立片入テ八分ニ  
煎滓ヨクニテ温可服三服スルニ汗出則イ卫タトニヤカテ

イ卫サレトモカロニ春夏ノ間以蒼朮ヲホトコスニ効アラスト云フ  
○順解散 傷寒ノ始テ病ヲ受テ未陽陽ノ證  
ヲ不分表裏ヲワキニ立サル先ニ通テ可与

蒼朮 薤本 桔梗 卯申 防風 独活各四

厚朴 陳皮各二又 右細末毎服二錢姜七片水一盃  
半入テ八分煎ニ淳コレテ温可服二三服 本竹

姜橘飲 傷寒ハ頭痛身ノスチツリソーロサムク腰背

ニイテキ痛半足ノ指ノ先小ニ立脉淳ニ緊濡ニシテ汗メラ

サルヲ傷寒ト去先 麻黃湯 人參順氣散

葱豉湯 蒼朮散 葛根散ヲ可能

○麻黃湯 广黃一又半 桂皮一又 卯草一又アシ

杏仁セ立粒 右細キサミ合毎服五錢水一盃半入テ

八分ニ煎滓ヨクニテ温可服被ヂカツキ汗ヲマラスヘレ

○人參順氣散

傷寒ノ頭ニイラキ痛ソロサムクホト

ラリ手足ニイラキ痛ヲ治ス  
ナ黄一互半乳姜一又

耳中一又 白木一又

人參一又

桔梗一又

香白芷一又

白薑半又

石橋篩テ毎服三錢水一大盃姜

三片葱二寸入テ八分ニ煎テ温可服汗出ハツケテ二三服

葱豉湯 略之

蒼朮散 略之

○上黃葛根湯

傷寒一三日頭項腰背ツリ痛

遍身ホトコルヲ治ス

ナ黄ユミテサニテ用

芍藥各三又 千姜四分

豉四個

葱白七莖

右細キサミ合毎服四錢水一盃半ヲ一盃ニ煎テ津ヲ  
コレテ温テ眠ヨ被ヲキテ汗ヲサメラスヘシ人ノエクコト四  
九里ホト以又重テ服ヨ若汗快クマラハ薦ノカユヲユルト  
ニテ温テスルヘシ汗出イエ次傷風ト云ハ脉浮テ緩ヒ  
す口大ニキ尺中ヨハク自ラ汗マラントレ頭痛身ホトヲ  
リ熱ハ多ク冷ハ少其外色赤クホトヨリテ手足ニ卫斯是  
ヲ傷風ト云是ハ出汗ヲ不可

○桂枝湯

敗毒散

独活散ヲ可手所詮傷寒

自初汗メラス故ナ黄湯ヲ用傷風ハ自始汗メラントス

大黄湯ヲ用

自始汗メラントス

是ハ汗ヲ不可出桂枝湯ハ留汗故此ホラ用也是ヲ隨  
スハタチ處ニ人ヲ殺ス窮テ易知ワキニ立ヤスシ能ニ得  
意ハ百ニ一モアヤニナシ

○桂枝湯 傷風ヲ治 桂枝一又芍薦一又  
甘草一又生姜五半 大棗六分半

右㕮咀メ毎服五錢水一盃半入テ八分煎滓ヲコレテ温  
ニメ服ヨ膳テ粥ユルトアルラスルヘシ粥ハ藥ノカラ助ル故  
也是モウシ汗出ル様ニメ減ラウルナリ

○敗毒散 傷風傷寒溫疫風濕ノ頭痛目ノ

ヒメキ手足痛ソロサムクメウシモホトララス項スクニ目中  
ニラマキ痛筋ツリ痰ラホキニナラニ可服其脉沉實ニメ  
十死一生ナラハ此藥ヲ与ルニ頃ニ効アリ

羌活 独活 前胡 柴胡 川芎 枳殼 各六分

右細末毎服三錢姜三片水一盃入テ七分煎服ヨ又  
カエリ湯ニカキタテ、服モ好老人小兒ニ通テ吉日ニ二三度  
服ヨ温疫時行ニ皆是ラ能ハタチ處ニ効アリ 又脚氣ニ  
王好也

獨活散薑ワツラハシキ故ニ畧也 右傷寒傷風ヲ知別テ

是ハ汗ヲ不可出桂枝湯ハ留汗故此ホラ用也是ヲ隨  
スハ夕千處ニ人ヲ殺ス窮テ易知ワキニ立ヤスシ能々得  
意ハ百ニ一モアヤニチナレ

○桂枝湯 傷風ヲ治

桂枝一又芍藥半

甘草一又生姜五半 大棗六又半

右㕮咀メ毎服五錢水一盃半入テ八分煎滓ヲコレテ温  
ニメ服ヨ。鰐テ粥ユルトアルラスルヘシ粥ハ藥ノカラ助ル故  
也。モウシ汗出ル様ニメ減ラウルナリ

○敗毒散 傷風傷寒温疫風濕ノ頭痛目ノ

止メキ手足痛ソロサムクメサシモホトララス項スクニ目中  
ニラキ痛筋ツリ痰ラホキニナラニ可服其脉沉實ニメ  
十死一生ナラハ此藥ヲ与ルニ頃ニ効アリ

羌活 独活 前胡

柴胡

川芎

枳殼

各六分

石細末毎服三錢姜三片水一盃入テ七分煎服ヨ又  
カエリ湯ニカキタテ、服モ好老人小兒ニ通テ吉日ニ二三度  
服ヨ温疫時行ニ皆是ラ能ハメ千處ニ効アリ 又脚氣ニ  
王好也

獨活散薦ワツラハシキ故ニ畧也 右傷寒傷風ヲ知別テ

療スル次第也

夫傷寒、傷風ノ死生ヲ知ント思ハ大谿ノ脉ヲトリテ可  
知此病ニライトハ此一脉ヲ以知ニ更ニ無遂大谿脉ハコレ  
腎經也足ノ内ノ踝ノ下後ニ依皮薄クホメル處ニアリサ  
クルニ大ニウコク脉是也傷寒、傷風ノ人此脉爻立スレハ必  
死メトニ病者ヨハグツツカレタルトモ此脉爻ヘサハ生ト知ヘシ  
是則祕事也

○傷寒ノ汗ヲタラシムシ陽氣弱成ヌレハ手ヲアケテ  
胸ウチサスリ心ノ下弱キモキ卫メヤスカラスハ 桂枝

甘や湯ヲ可与

○桂枝甘草湯

桂枝ニ爻

アラ皮ヲ去

甘草一爻

アリテ

右㕮咀毎服ニ錢若干三錢水一盃半入テ八分ニ煎メ  
滓ヲ濾テ温テ可服 日ニ三服心レツヒハト、ムル也

○傷寒ニ遍身手足ホトヲリ痢下リト、ニテス心下塞

リカタニリ内外トモニホトヲルニ 桂枝人參湯ヲ与ヘシ

○桂枝人參湯

桂枝五三錢

別ニキサメ

甘草五三錢

アラヒニ

白朮一枚 人參一枚 干姜一枚

右㕮咀毎服五錢

水二盃入テ一盃ニ煎后桂枝ヲ入テ又煎メ七分ニ至テ

淳ラコシテ温服ヨ晝ニ服夜一服利止ラハトメヨ

一傷寒ノ大熱テ十日ヨリ后脉淳細テ卧夏ラ好ニ  
ウエホトラリ少サメテ内熱未散セス胸三千フサカリ及ヒ  
傷寒五六十日或ハホトラリ或サムキ立胸服下苦ミ賑テ  
飲食モ不食胸ホトラリテ時ニ依或ハ嘆カワキ水ヲ  
ホシカリ或腹中病或ハ胸ノ下弱心キ卫シ小便滯或  
ハ嘆シ血氣弱傷寒ノ四五日身ホトラリハナハタシク  
ビウナレコハリスノミ服ノ下サニ三千足温メ嘆軋古上  
ニ白物生シ傷寒イ卫テ后室テ再發ニハ皆小柴胡湯

ラ可与

○小柴胡湯 柴胡二爻

黄芩三分 若股大ニイタニハ  
ラステ、芍藥三分

人參三分 半夏六錢二字 杞子三分 生姜三分

右㕮咀メ每服五錢水一盃半姜五片入テ八分ニ煎テ淳  
コレテ温メ服ヨ

一傷寒汗出后內熱心中塞カタガリ心下痛口乾目不明大便滯汗出テ后病コトメ又ス時ラトリテヨコリ脉沉  
ニ内熱スト心得テ大柴胡湯ラ可服

○大柴胡湯 柴胡二爻

黃芩三分 芍藥三分

半夏六錢ニ辛  
枳殼一两ナラ  
ステアラ 生姜二分  
大棗三ヶ 大黃半分

右咬咀毎服五錢水一盃半入テ八分煎テ滓ヲコシテ温テ  
眼ヨ刺エリト下ニテ服ヨ利下ハ留ヨ

○傷寒ノ利下テ蟄サメスハ大兼氣湯ヲ可与

○大兼氣湯

大黃半分

ナニシクノ用  
酒ニテアラヘ

厚朴一两

姜汁三合

枳實一两

鑑芒消半分

右咬咀一度ニ水一餕ヲ以先

厚朴枳實ヲ入テ半分煎テ后大黃入テ六分煎テ滓ヲ  
コシテ後芒消末テカキ立テ又火ニスヘテニカエリ三カエリ  
ワカニテ可服利下ニテ服ヨ利下ハ量又合テ可服芒消ヲ

除テハ小兼氣湯ト名ク同効アリ

○傷寒ノ咽ハレ痛ニハ 耳草湯ヲ可与

耳草二分

右咬咀毎服四錢水一盃ラ七分煎テ服ヨ日ニ三服若猶  
イエス桔梗三分加テ煎テ服セヨ

○傷寒ノ脉キニ留リ心驚干モ消スルニハ灸耳草湯可与灸  
○耳草湯 耳草二分 生姜二分 人參半分

生地黃四錢  
ツバキ桂枝三分 麻仁二分  
ステヨ大棗八枚人參二分  
右咬咀メ毎服五錢水一盃半入テ八分ニ煎テ滓ヲ捨ヨ  
後阿膠一ヶ入テワキトカシテ温メ日三服ヨ

○傷寒ノ風ニ當テ利下ヲ醫不知此ラ下ハ弥下ニテ日夜  
數十度下テ穀化セストテ食スルモノ色モ不易タメ下リ  
腰甲雷鳴ニ胸下寒堅リカニ卫ツキニ胸ホトラリテヤ  
スキ夏ラニサルラ治ハ耳草淳心湯ヲニヨ  
○耳草淳心湯 耳草枝 萱草ニ及干姜一又半  
半夏五分 大棗 黃連半分 人參半分  
石咬咀毎服五錢水一盃半八分煎テ滓ヲコニテ温服  
○五苓散 傷寒ノ汗出胸心サキホトラリテ眠更  
不能喫乾テ水ヲ呑ト思イ又水ヲ呑テ則ウツクニハ水逆

ト名ク心下塞リロ乾舌乾眠小便滯頭痛身ホトラルラ  
治ス  
猪苓三分黑皮去 潤淳五分 白朮三分 茯苓三分  
桂枝半分 右細末每服三錢カエリ湯テ服ヨ友弊甚アシテヨ  
冷水ニテモ服  
傷寒ノ一二日口中カワキテ其肖寒ケタツテ身軀痛手  
足ニ止骨節痛脉沈ラ治ス弊セニ人ニ不可与  
人參又 附子久炮テ皮ヲ 茯苓一又半 白朮二又半 茯苓一又半  
右咬咀毎服五錢水一盃半生姜四片七分ニ煎テ滓ヲ  
コレ温メ三服

○理中丸

傷寒ノ後霍乱ニ傷寒イニテ後再

ヤニカエリタルニヨシ一  
人參一又 腰皮ニ又 乳姜

耳草 白朮各一又

石細末テ煉蜜ヲシテ○九テ

毎服一丸カヘリ湯ニスリトイテ晝三服夜二服

○四逆湯

傷寒ノ外ハ溫ニシテ內ニ立足ノスナツ

リ水下リ身ニラメキ痛飲食口入ハ則吐胸ノ内サニ立テ

コニカヘリ手足ニ立腰底痛ヲ治ス

耳草一又

乳姜一分 附子一炮メ添ヨ

石咀咀メ一度ニ

水一盃半入テ七分ニ煎滓ヲ捨瓶メ服ヨ

○黃芩湯

寒熱相戰痢下腹中痛可与

咬咀メ一度ニ皆ヲ水ニ盃半入テ八分煎メ

滓ヲ捨テ温メ服ヨ

○茵陳蒿湯

傷寒ノ七八日身忽ニ黃色メ

褐色ノ如ク小便シフリ腰少腫ニ可与立處ニ効アリ

茵陳一又半 大黃三分 機子十

右咀咀メ水一

鍼三毫茵陳蒿ヲ入テ七分ニ煎メ后大黃機子ヲ入テ后又八分ニ煎滓ヲシテ服ヨ日ニ三服小便赤下テ色

忽ニ本可復

○枳實施子湯

傷寒ノイユテ后室テ病カ卫ル

ラ治ス 枳實一又 施子三十 カラコエタシ 殴<sup>ヨレニツメ</sup>又二分半

右一度ニ皆ラ水ニ<sup>ノ</sup>盆ラ先煎テカ卫ル時薬ヲ入テ八分煎テ黒豆ヲ入テ立六度ワキカ卫ラカシテ温テ服メ被ラキテ汗ヲサ可出

○桃花湯

傷寒ノ痢病ノ膿血ヲ下ラ治

赤石脂四又<sup>フタツニワケニテ一羊ヲハスリ振テ別ニ入ヨ一半ヲハウナクタキテ煎ス</sup>

糯米二升半 乾姜一分

右水一錢ニ入テ米ノニ卫ル

程ニ煎メ后滓ヲコレ赤石脂ノ株一度ニ錢一スクイヲ

此ノ煎物一刀ワラキニカキメテ、可服日ニ三度イエハ又不可服

○升麻湯

傷寒 中風ノ頭痛身ホトラリ身

痛鼻乾テイエル夏不能カニテ小人大人ハシカモカサニイエ  
イデガルモ既ニ出タルモ又天下ノ時ナラス寒ニ熱スルニ依  
人多疫病シ頭ラモキコト石ヲユイツケタル如タルラ治ス

升麻 赤芍藥

甘草アレ

乾姜 谷ホ分

右㕮咀毎服立錢水一盆半煎八分ニ至テ滓ヲコレ温テ服ヨ一日ニ二三服

○陽毒升麻湯

傷寒ノ腰背痛ホトラリ苦テ不

易顏赤狂言シ或ハ走或鬼見或利ヲ下シ膿血下

脉濱大シテ面赤クニタラニシテ錦ノ波ノ如シ咽痛ニ

是ニ六日ノハ是ヲ眼テイエヘシ七日以上ハ不可治

升麻六分 犀角一分 射干一分 黃芩一分 人參一分

耳中一分

右咬咀メ水一錠ニ入テ半分ニ煎滓  
ヲコシテ温メ一盃ハカリテ服テ食間ヘテ宜ニ再  
服ヨ被ラキテ汗ヲケ出ヘシ手足ヨリ汗出テイユ。

○竹皮湯

傷寒ノイエテ后婦更ラ行ニ依テ

直起テ嘔囊ノ腹中痛死トスルヲ治ルニ立處ニイエ

右音竹ノ皮ヲコソケテヨク煎テニ三服セヨ

○散魚甲散

傷寒ノ八九日ニテイエサル

ヲハ懷傷寒ト名諸薬ホノ治スルヲ不能ヲ治

鱉甲 酢ニヒタシテサ煮テ綿ヲトリステ、升麻

后アブリコガニテチ碎

前胡

カフヲ去

烏梅サ子ヲ去

枳實

犀角

ヤヌリテス

黃芩各半分

生地黃三分

耳草一分

石咬咀メ毎服

五錢水一盃半入テ八分煎滓ヲコシテ温テ可服

○玄參升麻湯

傷寒ノ汗下テ毒氣不

散外ハウツケテ内ハ猶弊外顯ヒテ身ニメ淳テ錦文  
如ニ甚シキトキハホトラリカワキタワコトシ嘆ハシ寒痛

ヲ治ス 玄参 升麻 耳中各半々

右呴咀毎服五錢水一盃半入テ八分ニ煎淳ヲ  
シテ温メ可服

○三黃丸 傷寒吐血黃疸ヲ治ス

黃連三分 大黃一反 黃芩一反 分 右細末メ

煉蜜○丸テ毎服十五丸カ卫リ湯ニテ可服

○赤石脂丸 傷寒ノ弊痢病ヲ治ス

黃連 當歸各二分 赤石脂一反 乾姜炮セヨ一分

右細末煉蜜ニテ○丸テ毎服三十丸米飲ニテ  
可服日二三度

○黃連阿膠湯 傷寒ノ弊毒冒ノ府入

テ利病ヲナシ或血ヲ下膿血利ト名トヲ治ス

黃芩一又ウアツツキサメ 黃連二又ニケラステ  
ウイレ、阿膠一又キサミイ リテ用

施膏半分 右呴咀毎服四錢水一盃七分煎淳ヲ  
シテ温メ時ヲ不定服ヨ

○黃芩芍藥湯 麝臘タルヲ治ス 黃芩三分

芍藥

甘草 各半分

右咀毎眼三錢水一盃入

六分三煎テ淳ラコシテ温テ日ニ二三眼セヨ

○萬連解毒湯

傷寒時行ソ三日以後汙タ

リテ酒ヲ呑ニ依テ大更ニ成ホトラリクルニミカラ卫羊

口乾狂言メ卧更不能ヲ治ス

黃連一分

黃芩

半分

施子四細ワレ 黃芩一分

右咀毎眼

ニ錢水一盃半七分ニ煎テ淳ラコシテ服ヨタニ酒ニ

不醉トモ發熱メ狂言ニ心失スルニ吉

○羌活附子散

傷寒咳逆ヲ治ス

羌活

附子炮ヨ

茴香 大薑羊爻

南木香

乳姜 一枚炮

右細末メ每眼一錢水一盃塩一捻ラ加テ煎温眼セヨ

二服ニ必留

○生薑半隻湯

傷寒噦ノ甚メ死ントスルラ治ス

半隻一枚一分以湯洗

生姜 二枚キサメ

右水一盃入テ八分ニ

煎テ淳ラコシテ温テ二度服セヨ

○杏仁散

四時ノ温疫傷寒ヲ治ルニ必効アリ

杏附子毛ヲ燒ステ、木臼紫蘿葉各四枚 陳皮一枚

裏ヲ不去

甘草

一枚

右咀毎眼四錢水一盃半入テ七分ニ煎

滓ヲコシテアツクレテ服ヨ時ラ不定日ニ三服

昔白髮老人此方ヲ一ノ富家ノ人ニサツク其家合テ  
一城ハ病者ニ施此藥ヲ服者皆愈其后疫鬼富人ニ  
問富人言ラ以テ鬼ニツク鬼ノ云此老人人ニシテ正タリ督  
願シテ去若細末メ毎服二錢塩湯ニテ服若身亦  
トラリ頭痛ノハ葱ノ白根三莖入テ煎服汙タラセ  
ハ立處ニイエ此方ハ甚効アリ

○白木散 傷寒ノ氣脉不和ニ增寒壯熱鼻塞  
リツキ子ハク咳ニ骨節ホトラリ痛及傷寒ノ再起ヲ

勞復ト云宗ト是ヲ治 白木四錢山藥桔梗茯苓  
甘草 香白芷 香附子モヲ去青皮ウツクシ石細末每  
服二錢水一盃姜三片棗二木丸一ヘ千紫蘿三葉入テ  
七分煎食前二服若勞后二六薄荷葉ヲ入テ煎ヨ  
○和解散 男女女人ノ四時傷寒頭痛增寒壯  
熱テ喉乾出咳嗽吐利スルヲ治ス 蒼朮八錢  
葛本 桔梗 甘草 厚朴ホク荒皮ヲヌテ姜ノ陳皮各文  
右㕮咀メ毎服四錢水一盃姜三片棗二入テ七分煎  
滓ヲ濾テ温シテ服ヨ

○僧伽應夢人参散 傷寒ノ身熱シ頭痛痰シケク

ハキ又ハカレニワフキシ痰トテ血ヲ吐ラ治ス 人參ヲラスニヨ

乾姜炮ヨ

炮ヨ

青皮廻サ子ウラ

三字

桔梗サツ

三字

杏白芷

三字

白朮奈谷分

石細末每服二錢水一盃半姜三片棗二八

分

煎テ

温服ヨ

三日方云元和年中泗列列七彦病コト八日

汗不出女

三字

僧伽ニイノリモトム夜夢ニツケテ云翌日塔中

薬ヲト

三字

夢サメテ大聖ノ鉢中ニメ此薬ヲ永得テ其薬

表書ニ云太平列揚家人參散トカケリ故僧伽ニ應夢

散ト云也但今ノ和剤方之無方着則三日方ニハ杏白

芷乾葛青皮桔梗白朮人參各三分

三字

甘草

三字

一分半

乾姜炮メ

三字

石細末每服二錢水一盃半姜三片棗二八

分

煎温テ可服傷寒六肢サ入テ可煎已上和剤方

七分ニ

三字

但三日方ラ今カキ又此外種々雖有治方夏多メ人迷更

ラモウイサカ易簡方ニ隨アラリ注畢又婦人小兒ノ傷寒

三字

ノ方ハ別ニ注シ以テ通メ治トモ更コトナルコトナシ但懷妊

ノ傷寒ハ不可通仍可見別卷以上傷寒部書出之

三字

○雲母膏方一切瘡腫物傷折等ヲ治ス又瘤贅

三字

上付ヨ一切ノ腫瘍上付ヨ立處ニイユ此膏藥

三字

羊ノ肉計ヲ

上付ヨ一切ノ腫瘍上付ヨ立處ニイユ此膏藥

三字

羊ノ肉計ヲ

三字

上付ヨ一切ノ腫瘍上付ヨ立處ニイユ此膏藥

三字

羊ノ肉計ヲ

三字

上付ヨ一切ノ腫瘍上付ヨ立處ニイユ此膏藥

三字

イム餘ハ忌憚更ナシ此膏藥ハ風不引セメ蠟紙ニ裹テ  
置ハ三十年不損一雲母粉自己カリアリテ硝石細ニフルエ

耳鳴已上各槐枝葉

路通ハ  
不用

桑白皮

柳樹

桔梗

蒼木

菖蒲附子黃芩厚朴

鱗片

吳椒

芍藥

麝香

香白芷白及柴胡

子引手

白歛

川芎

當歸

南木香

松脂人參茯苓夜合皮

子引手

當歸

沒藥

乳香

薑

鹽花黃丹

子引手

清油

陳皮

水銀

子引手

石絹ニスリタル

粟ホラノソケ

餘ノキサニ

薑トモヲ

油

子引手

テ石鍋ニ入テ裹ミ寢ヒメスコト七日置テ后ヨ干程

ツヨカラスヨワカラサル火ニス卫テ煎ヨヒニナク柳ノヘラテカリヘ  
シサテ火ヲ上ララロスコト三度スヘシ上火ラツヨクメニシニ剪スル  
也サテワキカルコトムラナリ見サテ火ヲ引シメス也ワキシツニラハ又火ヲ  
アツクスヘシ如是三度火ヲカゲ三度火ヲ引シメス是ラニ上ニ下  
ストエリサテ白芷附子ナトノ黃色ニコカレタルトキニ取ラロシテ  
新布ニ綿ラ重テ紋越テ又鍋ニ入テ丹ヲ入テ能ニカキ合  
テ身ナ先ニスリタ麝香乳香没薑松脂鹽花雲母  
硝石麒麟竭ラ入テヨクカキ合テ柳ノヘラニテタキテ火ニ  
スヘテ急ナラス子リテヒナリ手ラヤスメスカクシ此モ少ニ火アケテ

ワキアカラハニキレメノリテアカ子色ノ黒クナリテアワノメツコト  
休テ清カヘリテアラン時ウツタニテ水中ニ落入テミヨカターリテ  
吉程ナラハ取下ス但此后モノヨワキ火ニイタガモ子リタル旅吉  
サテニリハテ、后ハ此石錫ニテモ又餘ノ人物ニテモ、入テ上ヲ平ケテ  
膏藥ノ人体ヨリモサレ温ル時生ノ箱ニ先ノ水銀ヲ裏テ此膏、  
薬ノ上ニムラナク指ヲ以テハシキカクハ塩ヲ物ニキカクルカ如ノ脇  
取ニテ后ハ如本カケヨ此水銀ハ膏薬ノカラ増し此薬ヲヤレ  
ナウニヨリテ水銀ヲハ養薬母ト名ク

○神仙太一膏松云或方ニ黄、白芷入云以萬種六先  
白芷石壯ニ白芷黄色云如何八發癰疽一  
切惡瘡軟癰年月近キトラキラトハスステニウミタルモウニ尤モ  
休ニ昂イニクワレ及湯ニ燒タルニモ付ヨ内ニモ可服也  
當飯 大黃 玄參 赤芍藥 肉桂アラ皮ヲ生乾地黃各  
ケツリキ各  
丹アラ 麻油二斤 石油ニ以  
後ハ三日秋バ七日冬ハ十日ニタメ置テ后ニエルキ火ヲ以白芷  
ノ黃色ニコカルホシ剪出生絹ニ綿ラ室越絹テ浮ヲ捨  
后ラナヲ能キ可剪サテ丹ヲ用意ニ残テ入テ柳火ヘテニテ  
手ニヤスメスカキ三上三下メ后能キエルキ火ニ煉テサ水ニ入テ

カクサノ程ヲミテ丹ラモ油ラモ心得テ可入也唐丹ハ此分量

テ吉也日本ノ丹ハ油ヲ半減ニ入タルハ更ニ堅也油二年六日本

丹ハ十二三両計也テヨ

○鬼畏桃木事

淮南子云神祇於戶連灰其下童

子不畏鬼云是鬼知不如童子云云

康永三年六月廿一日書之訖蓋以療病之術欲

資利物之縁矣

傷寒 姜橘飲 身熱リ頭痛ラ心曠マトシ

テ陰陽寒傷暑ラ先サルニ先可与云

陳皮

又水ヲ以テ洗ヘシ

生姜

四又ガ碎皮ヲ

右水四杯ヲ入テ一杯半

ニ煎テ滓ラコシテ温テ可服此藥溫疫ホニ可服必イユ

以上選奇方後集

○葱豉湯

傷寒ノ一二日頭項背痛ソロサ

ムク脉緊メ汗不出治ス

豉ニ皿

葱白十四升

乾姜八分

麻黃四分第去

右咬咀メ一度皆ヲ水

一提入テ先麻黃汁ヲ入テ返テカシテアハラ捨テ后

乾姜ヲ入テ二十反計リカヘテカシテ黒豆ト葱心ノ根トヲ

八十六分煎滓ラコシテ温ニ服ニ分テ服ヨ服メ后人ノ

五味堂行久シサヲ經テ又一眼ヨニ服シテ后葱黒豆ア

粥ヲニテス、リ食テ被ヲ引カツキテ汗ヲ可出

若木散

四

傷寒ノ一日ニ日頭癢ホトラリソ、ロコ

サムク身躰ニイラキ痛ヲ治ス

カシテガリニカケヨ

蒼木半々泉水ニ皮ヲキサミテ灸

石膏一両

燒テアカ

テシメテサセスヘシ

茵陳蒿半々根ヲステ桔梗

耳草各半

石細末毎服一錢水一盃入テ八分煎テワケテ服シ  
可出汗

頬醫抄卷第四終

